

ICT を活用した新たな資源管理システム構築事業

イカナゴ漁場環境調査

倉田恵吉・羽生和弘

目的

伊勢湾におけるイカナゴの資源管理については翌年度親魚量 20 億尾をとり残す、とり残し資源量一定方針が行われてきたが、近年資源減少が著しく、2016 年漁期(平成 28 年漁期)から 6 漁期連続して解禁見合わせとなっている。沿岸海域の温暖化やイカナゴ資源の動向を調査し、イカナゴ資源への影響と対策の検討を実施するとともに、資源管理に取り組む漁業者に情報提供する。

方法

1 沿岸海域の温暖化や貧栄養化等の動向把握

イカナゴ資源量が減少した主な理由は夏眠場の水温上昇による親魚量の不足が疑われる。夏眠場の海底水温データを把握するため、令和 2 年度と同様に、鳥羽市神島沖の鯛ノ島礁周辺の海底に水温計を設置し水温測定を実施した。

2 伊勢湾内でのイカナゴ親魚の採集

これまで実施してきたイカナゴ夏眠魚調査では、2020 年(平成 20 年)調査から夏眠魚が全く採集されず、イカナゴ仔魚分布調査では、2018 年(平成 30 年)調査から仔魚が全く採集されなくなったが、漁業者からは産卵期以降に伊勢湾口周辺や伊勢湾内でイカナゴ親魚を目撃したとの情報が寄せられていた。このため、伊勢湾内の鈴鹿市千代崎沖および白子沖県内のバッチ網漁船による親魚の採集調査を実施した。

結果および考察

1 沿岸海域の温暖化や貧栄養化等の動向把握

7 月 25 日～11 月 30 日の期間について、過去に夏眠場が確認された鯛ノ島礁周辺の海底に水温計を設置し、海底水温の測定を実施したが、水温データを管理していた

機器の故障によりデータが失われ、夏眠場の水温に関する検討は実施できなかった。

2 伊勢湾内でのイカナゴ親魚の採集

3 月 11 日に県内のバッチ網漁船 1 統を備船し、イカナゴ親魚の採集調査を実施したが、イカナゴ親魚は採集されなかった(表 1)。

なお、イカナゴ親魚の採集にあたっては、事前にイカナゴの特別採捕許可を得て実施した。

イカナゴ資源の減少については、非常に厳しい状況にあり、夏眠魚調査や仔魚分布調査ではイカナゴの姿が見られなくなった。イカナゴの漁獲量は大阪湾・播磨灘、常磐、北陸などでも減少している。その原因として、黒潮大蛇行による海況の変化、水温の上昇や餌プランクトンの減少などがあげられている。これまでイカナゴ夏眠魚の生残に悪影響を与え始める水温を 25°C 以上と考えてきたが、他県の研究では水温 24°C 以下でイカナゴの生残率がよい、24.5°C 以下で肥満度が安定する傾向があるとの情報があり、水温 25°C よりもさらに低い水温からイカナゴの生残に悪影響を与える可能性が出てきた。これからも関係県と情報交換などを行い、引き続きイカナゴ減少の原因究明に取り組む必要がある。

また、今後も伊勢湾口での夏眠魚調査による親魚量や仔魚分布調査の結果を漁業関係者に情報提供し、漁業者が行う資源管理の支援を実施していく。

表 1. 伊勢湾内でのイカナゴ親魚採集量

場所	採集量 (kg)	イカナゴ	採集された魚種
千代崎沖	2.59	0尾、0.00kg	ボラ仔稚魚 レプトケファルス (アナゴ) マイワシ・カタク イワシ仔稚魚 メバル類・カサゴ類の仔稚魚
白子沖	28.40	0尾、0.00kg	レプトケファルス (アナゴ) マイワシ・カタク イワシ仔稚魚 ボラ仔稚魚 メバル類・カサゴ類の仔稚魚